



大津市【滋賀県】 歴史文化基本構想

■策定年度：令和元年10月 ■人口：343,550人 ■市域面積：465km²
■担当課：大津市教育委員会文化財保護課（令和2年3月現在）



豊かな歴史文化をもつ大津市には、世界遺産や日本遺産をはじめ、数多くの指定等文化財が所在している。これら以外にも地域では、歴史ある神社仏閣、仏像や絵画などの美術工芸品、祭礼などの伝統行事といった多種多様な歴史文化遺産が受け継がれてきた。これらの歴史文化遺産を保存・活用していくために、本構想に基づく事業を推進していく。

5 歴史文化を表す 5つのキーワード

遺跡が語る、信仰が生み出す、琵琶湖と暮らし、
道でつながる、文学につづられる

課題

- ・価値が明らかでない文化財の存在
- ・歴史文化の情報発信不足
- ・市民、専門家、行政による連携が不十分

保存活用方針

- ・継続的な調査・研究と適切な保存の措置
- ・情報発信による地域活力の向上
- ・体制・制度等の整備

保存活用のための取り組み

文化財の指定と保存

新たな文化財指定と、文化財の修理及び管理を進めていく。現在、比叡山延暦寺などの建造物や大津祭曳山など毎年60件程度の保存修理や管理等を対象に、補助事業を実施。また、重要伝統的建造物群保存地区である坂本地区においても、修理・修景を行なっている。



文化財の防火・防災対策

各関係機関と連携し、総合的な消防訓練を実施。広く市民に防火、防災意識及び文化財愛護思想の高揚を図っている。また、文化財保護課と消防職員が共同して指定文化財や文化財保有施設の査察を行ない、文化財を火災の被害から護る取り組みを進めている。



市民向け講座や現地見学会、体験授業などの実施

大津市歴史博物館や埋蔵文化財調査センターでは、市民向け講座や現地見学会を実施し、市民に大津の歴史文化を伝える機会と場を提供している。また、小学校の総合学習の支援や出前授業、体験授業などを実施し、学校教育と連携して大津の歴史文化を学習する。



歴史文化の情報発信

大津市歴史博物館では、常設展示や企画展において豊かな特色を持った大津の歴史文化を紹介する。また、歴史博物館のホームページでは、大津の歴史文化遺産に関する5つのデータベースを公開し、広く情報発信を行なっている。





関連文化財群

大津市の歴史文化の特徴 (歴史文化のテーマ)	大津市の関連文化財群
I. 遺跡が語る歴史文化	1. 原始・古代の暮らし 2. 渡来人の足跡 3. 大津宮と近江国府
II. 信仰が生み出した 歴史文化	4. 鎮護国家と仏教文化 5. 浄土信仰の展開 6. 祭礼文化と庶民信仰
III. 琵琶湖と暮らしをめぐる 歴史文化	7. 水運とともに歩む町 8. 水城と町の繁栄 9. 琵琶湖の暮らしと生業
IV. 道でつながる歴史文化	10. 東海道と大津宿 11. 北国との交流の道 12. 山越の道と参詣の道
V. 自然とともにつくる 歴史文化	13. 水と技 14. 里山の暮らしと生業
VI. 文学につづられる 歴史文化	15. 歌と物語

大津市の歴史文化の特徴を分かりやすく再整理し、多くの人々が理解・共有し、協働による保存・活用を推進するための手掛かりとすること、大津市における歴史文化の保存・活用を、個別の地域・地区を超えた横断的な視点から、戦略的かつ効果的に推進するためのツールとすることを目的に、6つのテーマ、15のストーリーを設定した。

ストーリー

- ① 遺跡が語る歴史文化
- ② 信仰が生み出した歴史文化
- ③ 琵琶湖と暮らしをめぐる歴史文化
- ④ 道でつながる歴史文化
- ⑤ 自然とともにつくる歴史文化
- ⑥ 文学につづられる歴史文化

策定後の成果 (見込まれる効果)

① **文化財保存活用**のマスタープラン
大津市には数多くの歴史文化遺産が所在しているにも関わらず、これらを総合的に保存・活用するための指針がなかった。本構想を文化財保存活用のためのマスタープランとし、歴史文化遺産の保存・活用を推進していく。これにより、大津市が進めるさまざまな事業に歴史文化遺産を活かしていくことが可能となった。



② **歴史文化を活かしたまちづくり**
本構想によって設定した6つテーマ、15のストーリーによる関連文化財群をベースに、「大津市歴史的風致維持向上計画」を策定する。これらと関連づけながら、歴史的風致の一体性の視点等を踏まえて、重点区域の設定を行ない、歴史文化を活かしたまちづくりを進めていく。



③ **歴史文化の魅力発信**
歴史文化の魅力を次世代に伝えるため、市や大津市歴史博物館HPにおける歴史文化情報の充実や広報などによる継続的な情報発信を実施。また、本構想で設定する関連文化財群等をもとに、小中学校の教員等と連携を図りながら、小中学生にも分かりやすい副読本を作成して、教育現場での活用を進めていく。

